

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 兵庫県立北須磨高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒654-0142

E-mail nishikaku106@yahoo.co.jp

Website http://www.hyogo-c.ed.jp/~kitasuma-hs/

幼児児童生徒数 男子 328名 女子 387名 合計 715名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「持続可能な社会を実現するために必要なエネルギー環境教育、国際理解教育」を活動テーマとして、ESDを各教科の授業目標の中に取り込み、ESDの実践を通して生きる力の育成を目標とした。

具体的には、エネルギー環境教育、国際理解教育を柱に、①エネルギー問題に係わる活動、②環境問題に係わる教育、③国際理解問題に係わる学習に係わる学習を行った。

### ①エネルギー問題に係わる活動

- ・ゴーヤの遮熱効果検証実験
- ・福島県立安達高等学校を訪問しての交流、福島第一原子力発電所周辺の放射線量の測定及び現状調査の実施、スカイプでの交流
- ・美浜原子力PRセンター・美浜町エネルギー環境教育体験館「きいばす」の見学
- ・夏場に刈った草や落ち葉を堆肥にしてサツマイモを育て、冬に落ち葉と夏に作成した竹炭を燃料に焼芋を作る。完全地産地消の実習

### ②環境問題に係わる活動

- ・竜が山 (タンク山) プロジェクト…地学基礎と生物の授業中に隣接する竜が山 (タンク山) をフィールド学習として活用し、神戸層群の堆積岩の観察や植物の

遷移について調査した。

### ③国際理解問題に係わる活動

- ・ 折り鶴プロジェクト
- ・ iCAN ノーベル平和賞受賞記念折り鶴プロジェクト
- ・ 高校生国際問題を考える日に参加
- ・ 模擬国連練習会議の開催



飯舘村での放射線測定



汚染土の入ったフレコンバッグ

## 太平洋戦争犠牲者と同数を米博物館へ

# 折り鶴350万羽協力を



専用の紙で折った「折り鶴」を手にする萬谷美里さん(左)と顧問の藤井幸孝教諭。北須磨高校

被爆者遺族の呼び掛けに、北須磨高生が呼応する生徒たちによる「折紙プロジェクト」が、鶴千さんの折り鶴を米国の博物館などに贈る「折りづるプロジェクト」を展開。今年、広島に原子爆弾を投下した爆撃機エノラ・ゲイが飛び立ったユタ州のワシントン・パーク空軍基地内にある博物館に届ける。

### 17日の文化祭 製作呼び掛け

専用の紙で折った「折り鶴」を手にする萬谷美里さん(左)と顧問の藤井幸孝教諭。北須磨高校

拓磨さんが同校で昨年7月に講演したのが縁で、世界平和や環境などをテーマに活動する生徒たちによる「折紙プロジェクト」の制作が、鶴千さんの折り鶴を米国の博物館などに贈る「折りづるプロジェクト」を展開。今年、広島に原子爆弾を投下した爆撃機エノラ・ゲイが飛び立ったユタ州のワシントン・パーク空軍基地内にある博物館に届ける。

## 被爆者遺族の呼び掛けに 北須磨高生が呼応

広島で被爆後に12歳で亡くなり、「原爆の子の像」のモデルになった佐々木樹子さんのおい拓磨さん(47)＝東京都＝の呼び掛けで、北須磨高校(須磨区友が丘9)の生徒らが、太平洋戦争で犠牲になった白米の犠牲者数と同じ350万羽の折り鶴を、米国の博物館に寄贈する活動に取り組んでいる。生徒らは17日に開かれる文化祭で、来場者らから協力を募る。

(小西隆久)

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input checked="" type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特に無し

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

学習指導要領の各教科の学習目標には、持続可能な社会の実現のために…という文言が含まれている。それらの目標を達成するために指導計画の中にESDを盛り込んでいる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

ESD推進委員会が中心となり、ホールスクールアプローチでESDを推進している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

外部の評価としては学校評価委員会で実施し、内部の評価としては生徒・保護者・教員を対象にアンケート調査を実施し、年間の実施事項に対してフィードバックしている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

国内向けにはユネスコスクール公式ホームページを通じて、「折り鶴プロジェクト」への参加を呼びかけ、多くの学校に協力をいただいた。また海外向けには「iCANノーベル平和賞受賞記念折り鶴プロジェクト」への協力を186か国のナショナルコーディネーターに依頼し、10か国34校から協力を得られた。多くのユネスコスクールがプロジェクトを通して交流できたことは素晴らしかった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
（200字程度）

※チェック事項 2-3 に対応

RCE兵庫—神戸に参加し、ESDスタディーツアープログラムを提供して、学生に参加してもらった。また、ESDについて意見交換するESDカフェ等を通じて交流ができた。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

※チェック事項 2-4 に対応

国内向けにはユネスコスクール公式ホームページを通じて、「折り鶴プロジェクト」への参加を呼びかけ、多くの学校に協力をいただいた。また海外向けには「iCAN ノーベル平和賞受賞記念折り鶴プロジェクト」への協力を186か国のナショナルコーディネーターに依頼し、10か国34校から協力を得られた。多くのユネスコスクールがプロジェクトを通して交流できたことは素晴らしかった。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

竜が山（タンク山）プロジェクトでは、生徒の反響が大きかった。フィールド学習を通じて、生きた教材に触れることの大切さを実感した。

### （3）平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- ・ 竜が山（タンク山）プロジェクトを、継続、発展して実施する。
- ・ 地域住民との交流の機会を増やす。
- ・ 近隣のユネスコスクールとの交流や協働プロジェクトの実施。
- ・ 地産地消や省エネの実施
- ・ 国際理解教育講演会の実施
- ・ JICAエッセイコンテストへの参加
- ・ トビタテ留学JAPANへの応募
- ・ 模擬国連への応募
- ・ 高校生国際問題を考える日への参加